

(エ) 論文要旨

論 文 要 旨

申請者氏名 高原 芳之

申請学位 博士 (国際開発)

主論文題目

グアテマラ和平合意後の暴力問題と治安改善

—日本の ODA 動向の変化と新経済協力モデルの考察—

英文題目

Violence Problem and Public Order Improvement of Guatemala after the Peace Agreement:

A Study of a New Economic Cooperation Model and Changes in Japanese Official Development Assistance Trends.

主論文要旨 [邦文は4,000字以内  
外国語は2,000語以内]

第1 問題意識

グアテマラは、中米地域で麻薬取引の活発化による治安悪化を受け、中米治安戦略支援国際会議を開催するなど、「治安改善」に向けてリーダーシップを発揮しつつある。

日本の対グアテマラODAの重点事項は、第1に貧困地域の社会・経済開発であり、貧困層・先住民が多く居住する地域において社会開発（保健・衛生、教育等）及び経済開発（交通インフラ、中小零細企業、農村開発等）支援を行うことで、都市部との格差是正に貢献し、持続的・包摂的成長を促している。第2は環境・防災対策であり、水質汚濁や廃棄物処理による生活環境の悪化や頻発する自然災害に対する脆弱性に留意し、日本が有する知見を活用したクリーンエネルギーの導入などの環境保全や災害リスクの軽減、災害発生時の対応など防災分野における支援を実施している。

一方、肝心の「治安改善への協力」については、ODA実施の留意事項として掲げているものの、2014年1月現在において技術協力、開発調査、有償資金協力等の案件としては至っていないのが現状である。

第2 研究の進め方

グアテマラの現況の把握を目的として平成25年度は現地調査を実施した。平成23～25年度の研究紀要に掲載した内容を踏まえつつ、本研究はその調査結果を反映させたいと、26年度内の博士論文完成を目標として計画している。

グアテマラ和平合意後約16年が経過した中で、国連をはじめ国際社会が、グアテマラの行う和平

プロセスに如何に関与し「治安改善」にも成果をなし得たか、先行研究を整理・分析しながら、現地政府及び国際機関等へのインタビュー結果をもとに、現グアテマラ政権の取り組みと主要援助国・機関が如何に関与しているか、更に日本がODAを通じて「治安改善」にどのような役割を果たそうとしているのか、その動向を明らかにして進めていきたい。